令和４年度

社会福祉法人海士町社会福祉協議会　事業計画

１人はみんなのために　みんなは１つの思いのために

私たちが　まずは受け止めます

令和４年度　社会福祉法人海士町社会福祉協議会　事業計画

１人はみんなのために　みんなは１つの思いのために

私たちが　まずは受け止めます

【基本方針】

令和３年４月海士町で新型コロナウイルスの感染が確認された。３回のワクチンの接種が終了しWith コロナ時代の事業継続を行政や他の法人、保健所などの関係機関と模索した１年だった。今年度は基本的な感染対策と情報共有を行いながら、閉じこもりによりフレイルの予防や認知症（精神症状）の悪化を招かないよう地域福祉活動を再開していく。

昨年８月に発生した 50 年に一度の大雨は町内に多くの被害をもたらし、要介護者や障がいのある住民に対する避難方法や避難場所に課題を残した。福祉避難所に指定されている海士町社会福祉協議会として、行政や関係機関と福祉避難所としての役割と運用を確認し災害に備える。また災害時のボランティア受け入れについて行政との役割を協議し、災害発生時に迅速にセンターを立ち上げることができるよう準備を進める。

住民が抱える生活課題が多様で複合的になっている。社会福祉協議会への相談も多様化しており、判断能力が低下している方の支援から様々な理由による生活困窮の相談が増加している。法人内で連携し、私たちがまずは受け止める姿勢を持ちながら、行政や専門機関との役割分担を確認し総合相談機能や包括的な支援体制の強化を目指す。

人口減少により海士町全体の福祉サービス持続が困難になってきている。法人合併を視野に入れつつ、行政、あま福祉会、だんだんと持続可能な福祉サービスを検討していく。11 月に発足した「海士の福祉みらい会議」は３法人の現場職員が自らのスキルを向上しながら、海士町の福祉の未来について検討した。今年度は役職員を巻き込みながら、心一つに海士町の福祉の魅力の向上を目指す。

社会の変革期にはさまざまな情報が錯そうする。法人内でのコミュニケーションをしっかりとりながら、様々なツールを活用して情報の共有を行う。住民に海士町社会福祉協議会の活動に共感していただき、地域福祉活動に参画してもらえるような広報活動を戦略的に行う。

令和４年度　重点目標（部門・事業別）

【地域福祉】

○地域調査や訪問を通して潜在する福祉課題を抱えた住民の相談を受け止め、関係機関と連携しながら地域生活が維持できるよう支援する

○地域活動貸出物品を整備しコロナ禍での住民主体の活動を支援する

【在宅福祉（ヘルパー・デイサービス・生活支援ハウス)】

○オンライン研修を活用しながら最新の介護技術を研鑽し技術のアップデートを図る

○他法人と連携しながら学生など巻き込み季節の行事などを開催し交流を行う

○令和３年度に続き太陽を意識しながら、外活動を充実させ利用者の精神向上を図る

【居宅介護支援事業】

○総合相談窓口としてケース検討等を通じて制度理解やスキル向上を図る

○住民や利用者に福祉や社会資源の情報を発信する

【公益事業（福祉用具貸与)】

○ターミナル期の利用者に対し迅速にニーズに対応できるようストック品を充実させる

【保健センター】

○福祉避難所を役場と協議の上整備し、災害発生時に要介護者を受け入れる体制を作る